



TSURUMI PUMP
For The Earth, For All The People

水中ノンクログ型 スマッシュポンプ

小間番号
4-105(4号館)

BN型

高効率と
通過性を
両立！

革新的な
異物通過性能

KRBN型

片水路構造で
気中運転が可能！

通過試験映像は
こちら



タオル

ロープ(長尺物)

(社内通過試験)

株式会社 鶴見製作所

大坂本店：〒538-8585 大阪市鶴見区鶴見4-16-40 TEL.(06)6911-2351 FAX.(06)6911-1800
東京本社：〒110-0016 東京都台東区台東1-33-8 TEL.(03)3833-9765 FAX.(03)3835-8429

北海道支店：TEL.(011)787-8385 東京支店：TEL.(03)3833-0331 北陸支店：TEL.(076)268-2761 近畿支店：TEL.(06)6911-2311 四国支店：TEL.(087)815-3535
東北支店：TEL.(022)284-4107 北関東支店：TEL.(028)613-1520 中部支店：TEL.(052)361-3000 中国支店：TEL.(082)923-5171 九州支店：TEL.(092)452-5001

www.tsurumipump.co.jp

下水道展'25 大阪

あす開幕 / インテックス大阪

下水処理、管路資器材、維持管理、設計・測量など下水インフラに関する製品・技術が集う「下水道展'25 大阪」が、7月29日から8月1日までの4日間、大阪市住之江区のインテックス大阪で開催される。主催は日本下水道協会。開場時間は10時(初日10時半)から17時(最終日16時)まで。入場無料。ウェブでの事前登録制。

自治体―点検・改修急ぐ

上・下水道市場は成長が著しく、米国の調査会社メテイクス・リサーチによると、世界の下水道分野の市場規模は2024年で約3672億ドル(約54兆円)にのぼる。今年1月、埼玉東八(約34年)に転落する事故が651(約6億9千万円)に発生。下水道管の老朽化による破損が原因とみられる。事故後、下水道管のバイパス工事や掘削工事が行われた。一方、この事故はインフラの本国内では老朽化が引き起す深刻な問題として、世間の注目を浴びることとなった。これらをきっかけ、全国の自治体は下水道管の点検や改修の必要性を改めて認識し、国による対策強化を求める声も高まっている。国土交通省などは、インフラの総点検と更新計画を盛り込んだ「インフラ長寿化基

本計画」を推進する。30年度までに主要管路の更新を完了させる予定だ。23年度末における日本の下水道管の総延長は約50万km。老朽化が進む地方自治体の下水道施設について、国は「ストックマネジメント」を導入している。施設全体の状態を中長期的に把握し、リスクに応じて優先順位をつけ、事業の平準化やコスト削減を図る。下水道施設全体を見据えて、維持管理と改修を一体的に捉えた効率的な運用が求められる。先端技術の導入や、民間企業との連携による整備の加速も急務となる。

日本、老朽化、深刻

本計画」を推進する。30年度までに主要管路の更新を完了させる予定だ。23年度末における日本の下水道管の総延長は約50万km。老朽化が進む地方自治体の下水道施設について、国は「ストックマネジメント」を導入している。施設全体の状態を中長期的に把握し、リスクに応じて優先順位をつけ、事業の平準化やコスト削減を図る。下水道施設全体を見据えて、維持管理と改修を一体的に捉えた効率的な運用が求められる。先端技術の導入や、民間企業との連携による整備の加速も急務となる。

上・下水道 世界54兆円市場

下水道管の老朽化が深刻な問題として、世間の注目を浴びることとなった。これらをきっかけ、全国の自治体は下水道管の点検や改修の必要性を改めて認識し、国による対策強化を求める声も高まっている。国土交通省などは、インフラの総点検と更新計画を盛り込んだ「インフラ長寿化基

有力企業の製品・技術

鶴見製作所

鶴見製作所は、独自の「スマッシュ機構」により革新的な異物通過性能を実現した「水中ノンクログ型スマッシュポンプ」を販売している。高効率と通過性を両立した「BN型」、省スペース化と気中連続運転を可能にした「KRBN型」の2機種を展開する。従来のポンプで詰まりの課題を抱える各種汚水処理施設、下水道関連工事や異物を多く含む工場排水、雨水排水などで幅広く活躍が期待できる。出力はBN型が1・5～15キロ、KRBN型は2・2～17・5キロ。

オルガノ

オルガノは好気性グラニュールを用いた連続式下水処理システム「AGSOR(アグソー)」の紹介および国内外での実機実証結果を展示する。AGSORは高密度に自己凝集した微生物の効果により、従来法の1・5～2倍の高速処理、窒素・リンに対する処理水質の向上、最終沈殿池での固液分離の安定化が可能となる。既存設備と比較して生物反応槽、最終沈殿池の大幅なダウンサイジングを図れる。また、OD法縦軸型曝気攪拌機「オルローター」、高速繊維濾過装置「FIBAX」など長年にわたり研究開発を積み重ね、提供している下水道技術分野の新製品を紹介する。

ウーラジャパン

ウーラジャパンは100年近い歴史を有するドイツの検査機器メーカーWöhler Technikの日本法人として、2024年7月に設立された。下水道普及率が95%を超えるドイツでは、高い技術力と現場環境を追求した製品開発力を強みに、管内カメラでトップクラスのシェアを誇る。特に直径40mmのカメラヘッドは、縦180度・横360度に移動し、スマートフォンの操作で高い運用性を実現している。日本の下水道インフラにおいて老朽化が進み、定期的な管路検査の必要性が高まる中、ドイツで確固たる地位を築いた管内カメラを紹介する。

荏原実業

荏原実業は「心地よい環境を、未来へつなぐ。」をテーマに出席する。「Ebatens as/Ebatens」は自然災害などで電源を喪失したマンホールポンプを迅速に起動する。応急復旧の要点を抑えた技術で人々の安心安全な暮らしを守る。能登半島地震では被災地支援として同システムが導入され、内閣府の「防災×テクノロジー」官民連携プラットフォームによる第一回マッチングピッチにも登壇した。またクラウド型遠隔監視制御システムやアンモニオ性窒素濃度を連続測定する水質計器、腐植質脱臭剤など、水インフラ施設で活躍する製品を展示する。

国内最大規模 最新技術・機器が集結

下水道展は下水道事業の管理者である地方公共団体などを対象に、下水道に関する幅広い分野の最新技術・機器などを展示、紹介する国内最大規模の展示会。今回は350社・団体が1186小間で出展する。会場では老朽化した管路の更新に最適な工法や設備・機器などが紹介される。雨水排水能力の増強や耐震性の向上などを図る製品・技術・サービスも見られる。このほか高効率な設備・機器の導入による省エネルギー化や、下水熱・バイオマスの活用など、下水道の持つ資源を活用する取り組みなども提案される。会場は下水道処理ゾーン、管路資器材ゾーン、維持管理ゾーン、建設ゾーンなどに分かれる。また下水道について理解と関心を深める「一般来場者向けゾーン」を設ける。大阪府や東京都をはじめ、下水道の正しい使い方についてわかりやすい方についてわかりやすい解説する。併催行事として日本下水道協会主催の「第62回下水道研究発表会」が別会場のATCで7月30日(土)13時45分から開催される。このほかセミナーなど、下水道事業の発展に貢献する技術の高度化を図る。このほかセミナーなど、下水道事業の発展に貢献する技術の高度化を図る。

研究発表・セミナー…多彩なイベント

下水道協会主催の「第62回下水道研究発表会」が別会場のATCで7月30日(土)13時45分から開催される。このほかセミナーなど、下水道事業の発展に貢献する技術の高度化を図る。このほかセミナーなど、下水道事業の発展に貢献する技術の高度化を図る。



WÖHLER
左右360°上下180°回転のカメラヘッドで
どんな汚れも鮮明な画像で見逃さない！
wöhler.co.jp/p_18810
ウーラジャパン株式会社
〒390-0874 長野県松本市大3丁目3番9号 NTT東日本松本大宮ビル1F
050-3110-2885

ブースNo. 4-103

アグソー AGSOR®

好気グラニュール汚泥を用いた
連続式下水処理システム

▼ AGSOR 特設ページ ▼



ORGANO **オルガノ株式会社**
kankyo@organo.co.jp

水や空気は、
未来へのバトンだと思う。



2024年10月、荏原実業株式会社は、コーポレートブランド「Ebatens」を立ち上げました。

心地よい環境を、未来へつなぐ。

荏原実業
https://www.ejk.co.jp/

Ebatens